

2H01

中小企業の水平連携における技術情報 の伝達と共有

プレゼン：3月10日 A会場 11:15～ 企業を超えた新ビジネスモデル

対象業務の現状と取組み

中小企業の水平連携における技術情報連携とオープン/クローズ情報管理

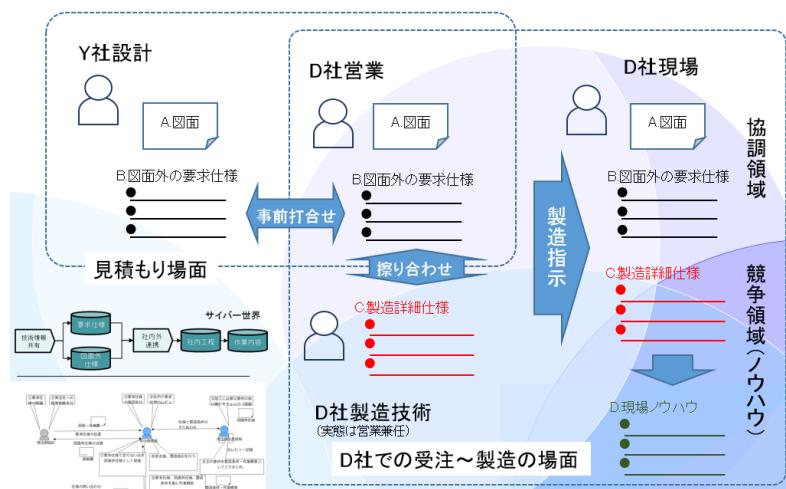
国内での量産案件が減少する中、試作開発において不規則リピート生産や類似品受注時における技術情報の共有・伝達をいかにうまく行うかが中小製造業における競争力強化のカギとなっています。

また航空宇宙産業界などでプロセス毎に都度、発注元に品物が納品される従来の「のこぎり型」受注形態から、プロセスを担当する中小企業の連携体が一括で受注して完成品を納める一貫生産形態へニーズが移り変わりつつあります。

本取り組みではこれらの両立を目的とし、同時に各企業間で共有する「オープン」情報と企業内でノウハウとして蓄積する「クローズ」情報をセキュリティを担保した形で同時に管理できる仕組みの構築を目指します。

実証実験・業務シナリオ (TO-BE)・成果

まず現場の暗黙知を洗い出して共有しなければならぬ情報を洗い出します。次に、企業間でオープンにして共有すべき情報「共有項目」と、製造ノウハウなどクローズにして共有すべきではない情報「個別項目」を実証実験から明確にしていく計画です。



- ファシリテータ : 笠原真樹 (由紀精密)
エディタ : 今野浩好 (今野製作所)
メンバ : 廣門伸治 (電化皮膜工業)
湊研太郎 (海内工業)
吉村正平 (エコサポート)
挟間紀行 (アビームコンサルティング)

